

## 臨床研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学では、研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施しています。

患者さん又は患者さんの家族等が、この研究のために患者さん本人の試料・情報を使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。情報の使用等についてお断りになられても、患者さんに不利益となることはございません。

研究課題名	進行期甲状腺乳頭癌に対する、抗酸化酵素ペルオキシレドキシシン (PRDX4)の予防メカニズムの解析
研究機関名	金沢医科大学
研究責任者	金沢医科大学 臨床病理学 山田壮亮
研究期間	倫理審査委員会承認日 ~ 2022年11月1日
対象者	選択基準：2006年4月1日～2014年4月1日までの間に金沢医科大学病院で甲状腺乳頭癌手術を受けた患者さん 除外基準：術中死亡例 甲状腺乳頭癌以外の担癌症例
当該研究の意義・目的	<p>1. 背景</p> <p>甲状腺乳頭癌は男女ともに罹患率が年々上昇しており、若年者での発症も非常に多いという疾患的特性・特徴があります。大半はStage 早期癌であり手術により長期の生存を望めますが、Stage 以上の進行期になると再発転移を繰り返し、最終的には未分化転化を引き起こす症例もあり予後が良いとは言えません。未分化転化を起こすと生存中央値は5カ月以内であり、根治治療は存在しません。その意味でも、進行期甲状腺乳頭癌の臨床病理学的予後マーカーが求められていますが、未だ有意かつ特異的なものは非常に少ないのが実情です。“ Peroxiredoxin (PRDX)ファミリー ” は、近年発見された抗酸化酵素であり、その中で唯一の分泌型であり細胞外因子としても機能している PRDX4 は、悪性腫瘍の種類によって細胞の増殖促進的役割と、相反する抑制的役割を持つことが判明しています。最近我々は、甲状腺乳頭癌と同様に発症機序にチロシンキナーゼが関与する肺腺癌では、PRDX4の高発現が腫瘍細胞増殖の抑制、および良好な予後に有意に関与していることを報告しました。よって甲状腺乳頭癌も同様に PRDX4 が腫瘍増殖抑制に関与するのではないかと推測しました。</p> <p>2. 目的・意義 PRDX4 の抗酸化作用に着目し、進行期甲状腺乳頭癌におけるそれらの関与と、さらには最適な治療計画・予防の可能性を目指し研究をします。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。手術により、上記期間中に得られた年齢、性別、予後（5年～10年後再発率）、病期分類等を含む、多岐に亘る臨床病理組 織学的パラメーターを、本研究のために使用させていただきます。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。
外部への資料・情報の提供	他施設へは提供せず、外部への提供はありません。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
利益相反について	この研究について特筆すべき利益相反はありません。

問合せ先	その他、この研究に関するお問い合わせは、下記へご連絡ください。 金沢医科大学 臨床病理学 教授 山田 壮亮 住所：石川県河北郡内灘町大学1-1 ☎：（代表）076-286-2211 内線 5341,5057
------	---

作成日： 2021年11月25日